

各交通モードの年度別輸送実績

九州運輸局
令和6年9月26日

運輸と観光で九州の元気を創ります

<お問い合わせ先>
九州運輸局交通政策部交通企画課
井上、田上、白谷
電話：092-472-2315
国土交通省九州運輸局HP

<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>



九州運輸局管内の輸送実績の動向（令和5年度）

- 令和5年度の輸送実績は、コロナ禍前の水準には及ばないものの、令和4年度に引き続き回復傾向となった。
- 陸上交通では、鉄軌道は対令和元年度比で9割を超えるまでに回復しているが、バス・タクシーは8割に届いていない。特に観光需要の影響が大きい貸切バスや高速バスは、他のモードよりも低い水準に留まっている（令和元年度比：貸切バス約68%、高速バス約59%）。
- 海上交通では、長距離フェリー・主要離島航路ともに令和元年度以降回復を続け、長距離フェリー航路の旅客輸送及び主要離島航路の自動車航走はコロナ禍前の実績を初めて上回った。また、対外旅客定期航路（日韓航路）は水際対策の緩和により令和4年11月から順次運航が再開されて以降、コロナ禍前の5割程度まで回復している。

バス事業（一般乗合バス）

3.35億人

(R4年度比:102.5%)
(R1年度比: 77.9%)

鉄軌道事業（全体）

6.57億人

(R4年度比:111.0%)
(R1年度比: 96.2%)

長距離フェリー航路（旅客、自動車）

170.8万人、133.7万台

(R4年度比:120.2%、106.7%)
(R1年度比:108.8%、111.7%)

主要離島航路（旅客、自動車）

284.4万人、26.4万台

(R4年度比:115.1%、105.2%)
(R1年度比: 87.1%、104.0%)

タクシー事業

1.10億人

(R4年度比:102.0%)
(R1年度比: 73.7%)

鉄軌道事業（JR九州）

3.19億人

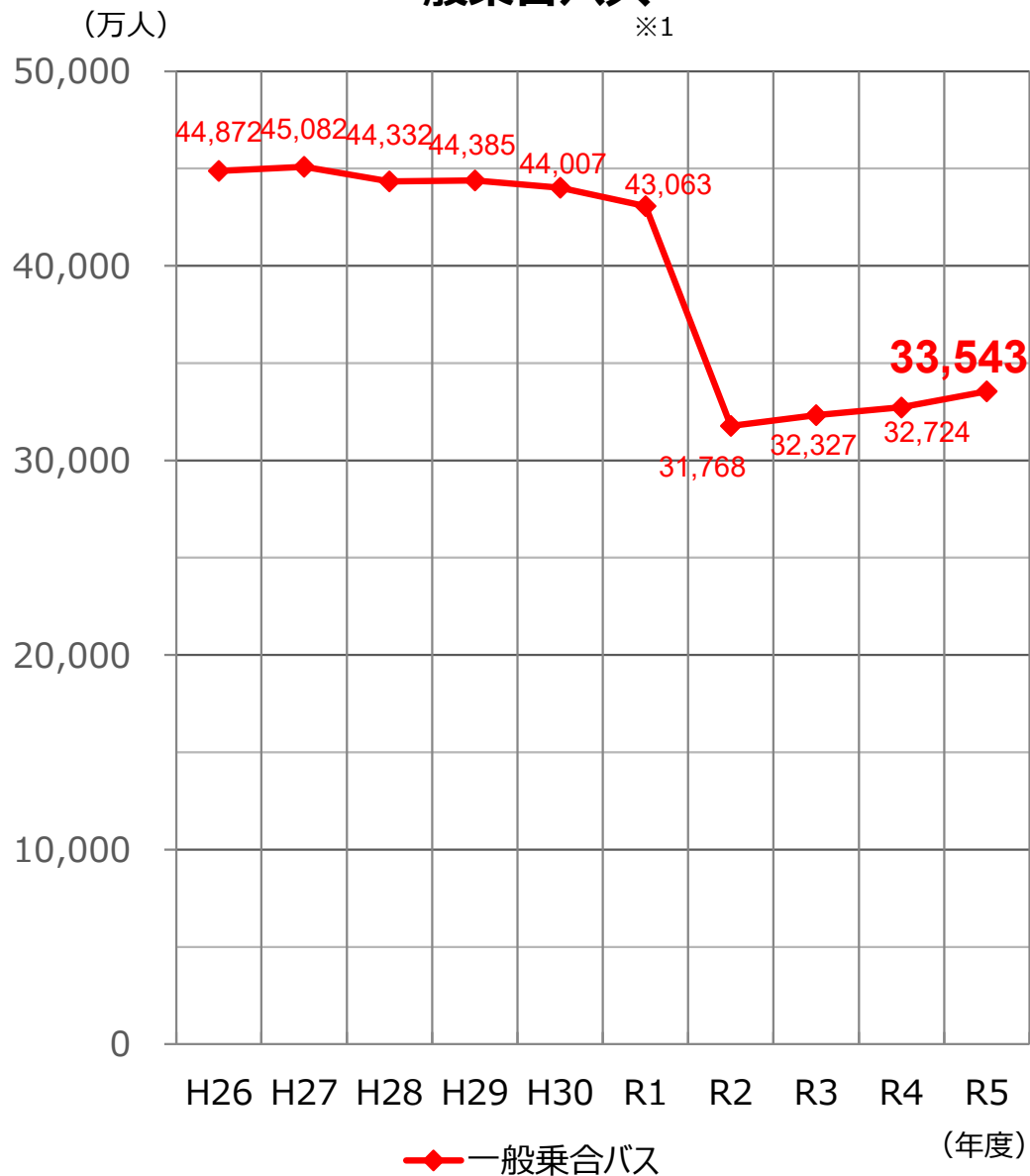
(R4年度比:107.4%)
(R1年度比: 94.4%)

対外旅客定期航路（旅客のみ）

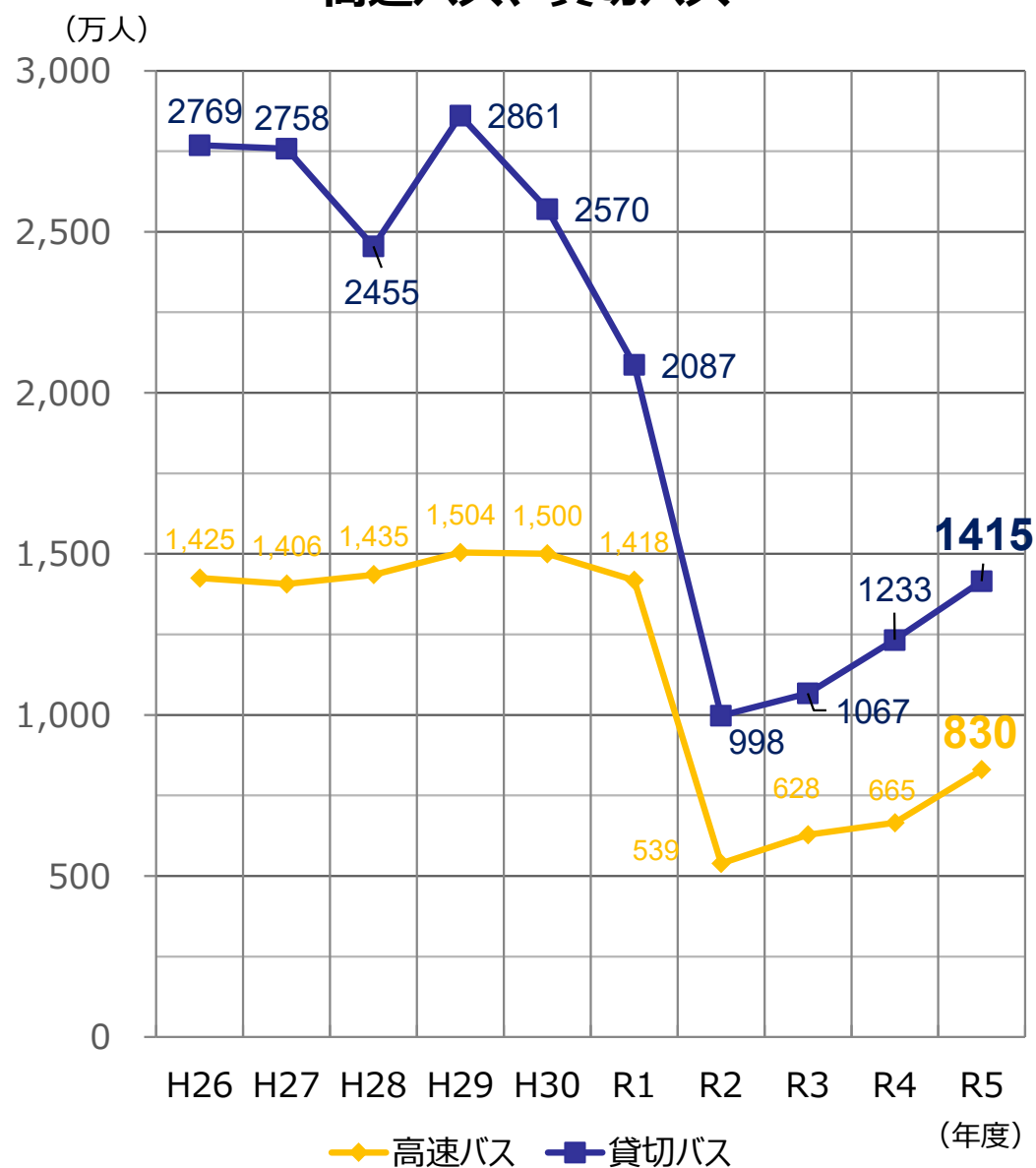
73.3万人

(R4年度比:1277.8%)
(R1年度比: 127.8%)

一般乗合バス



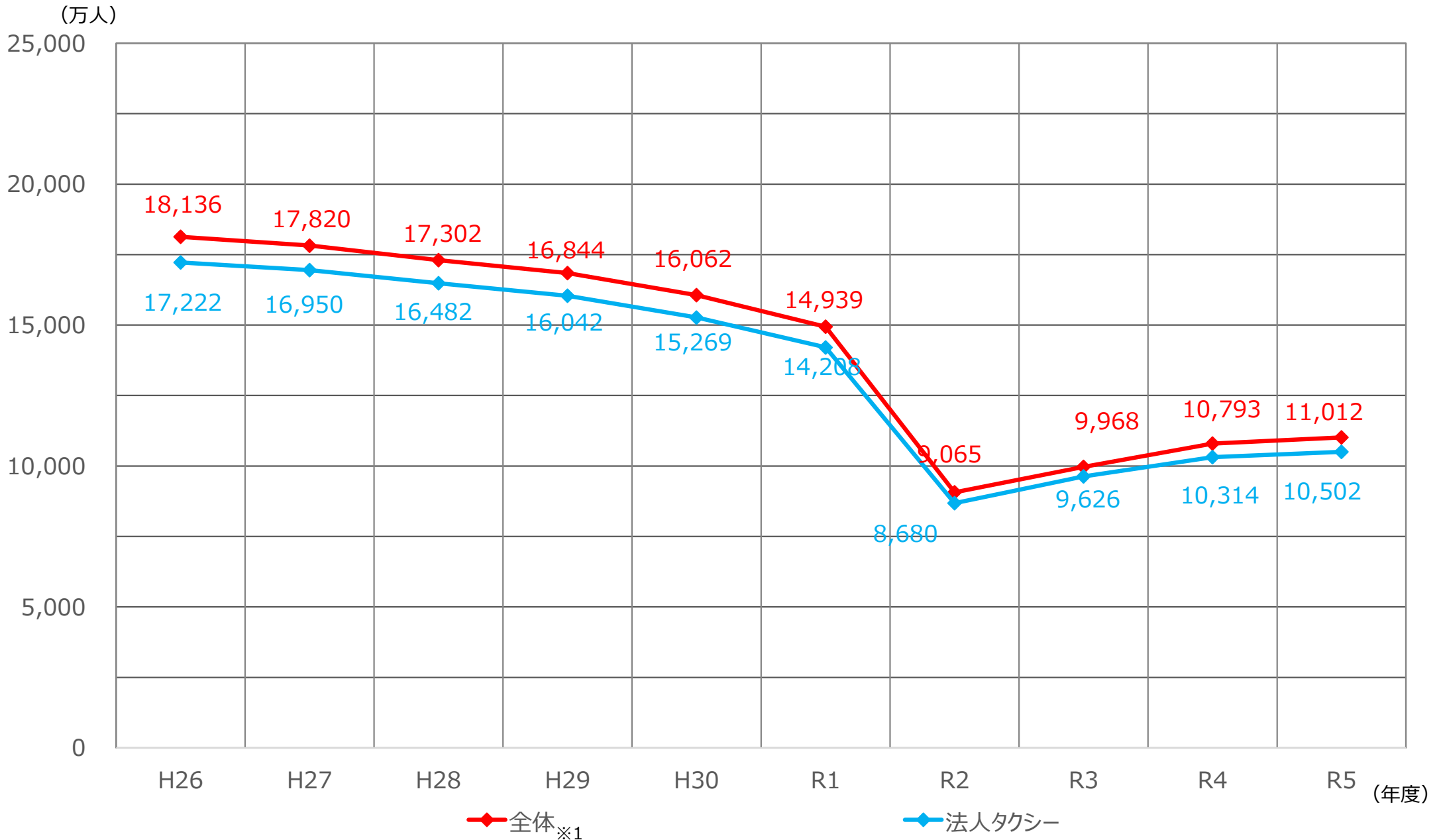
高速バス、貸切バス



※1 「一般乗合バス」とは、路線バスのうち、高速バス（高速道路を利用して、概ね50km以上走行するもの）を除いたもの。

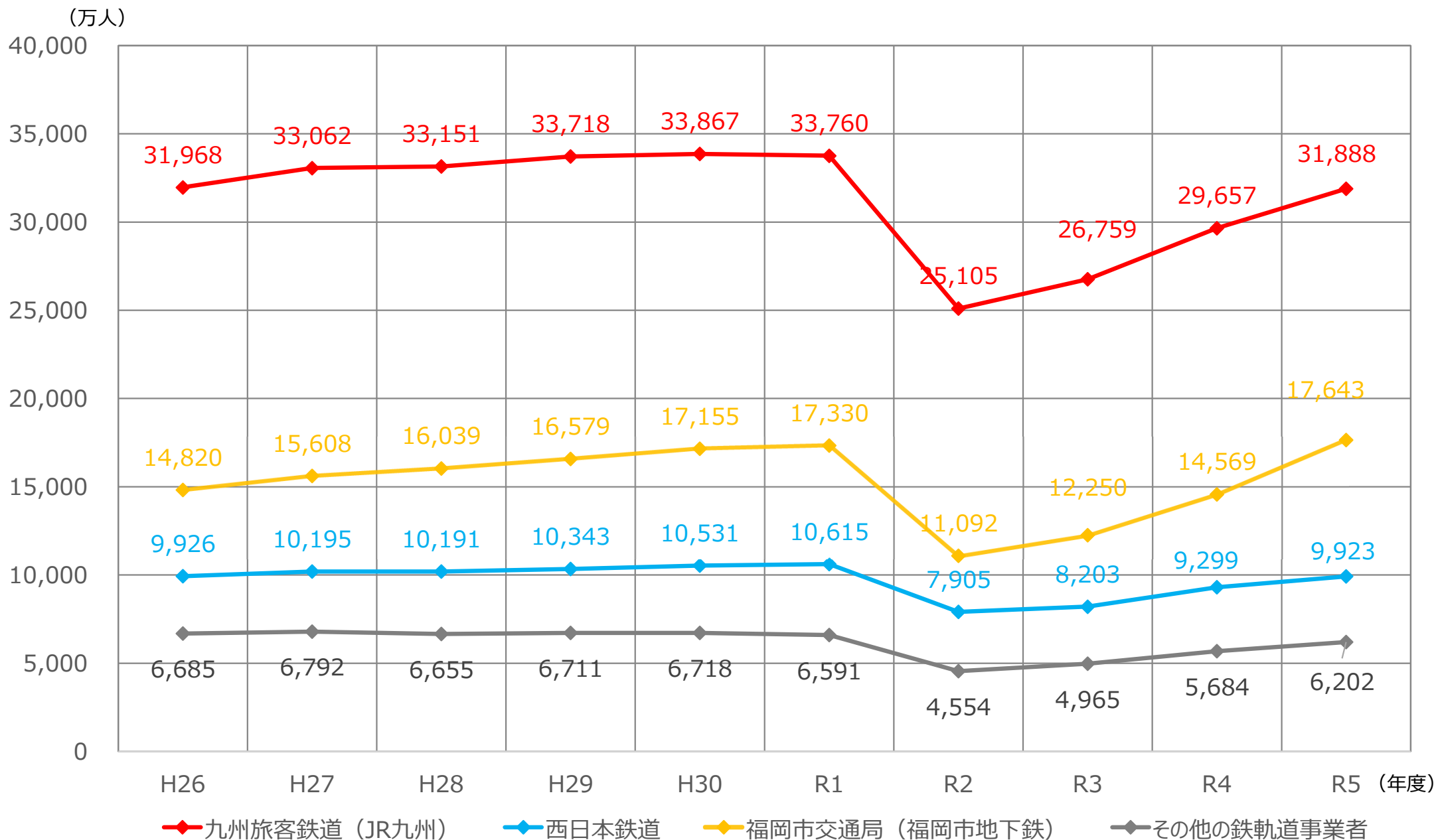
※2 R5年度の輸送実績は一般乗合バス、高速バス、貸切バスともに速報値。

九州のタクシー事業の輸送実績



※1 「全体」には、法人タクシーの輸送実績のほか、いわゆる「個人タクシー」の輸送実績を含む。

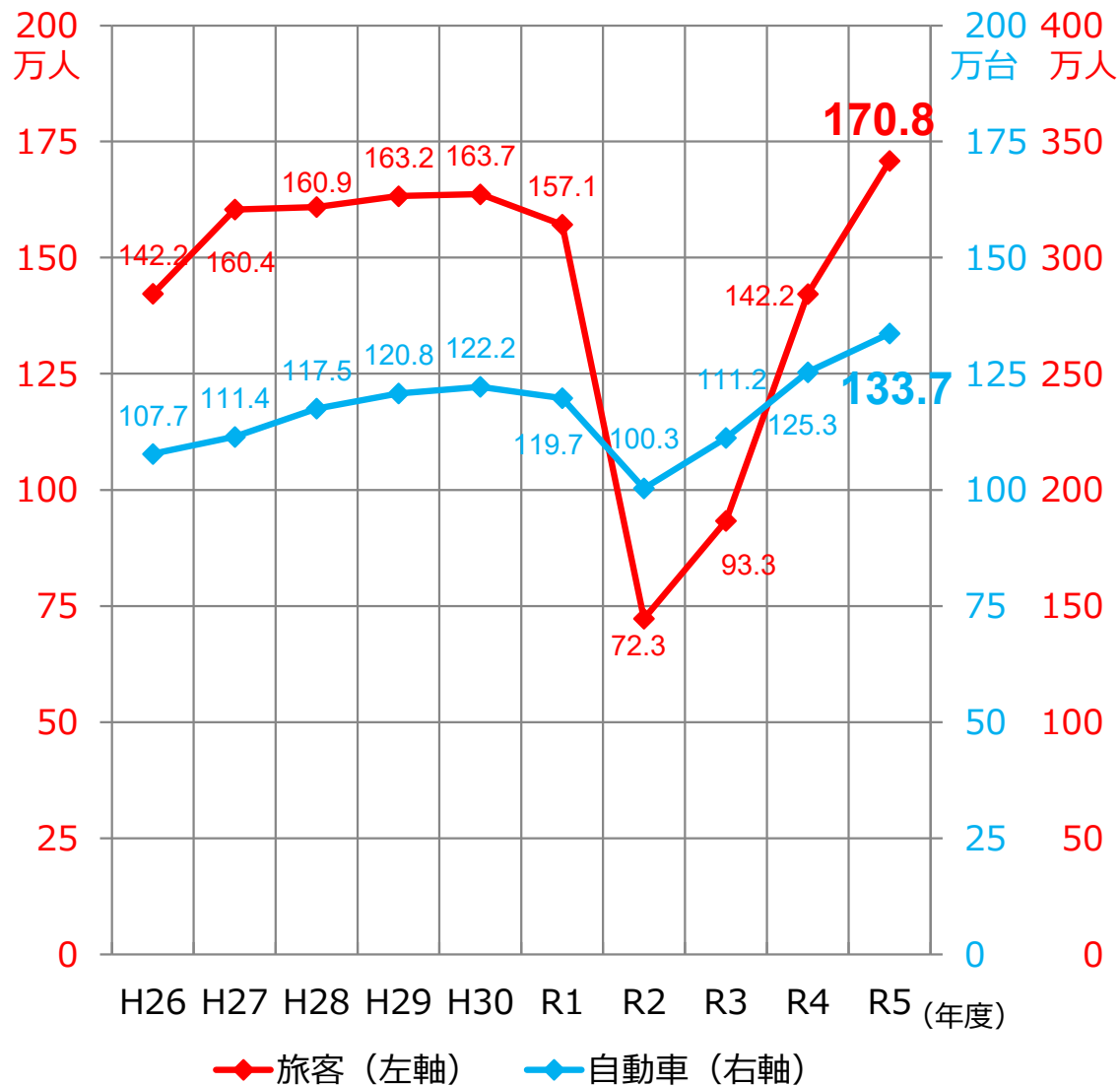
九州の鉄軌道事業の輸送実績



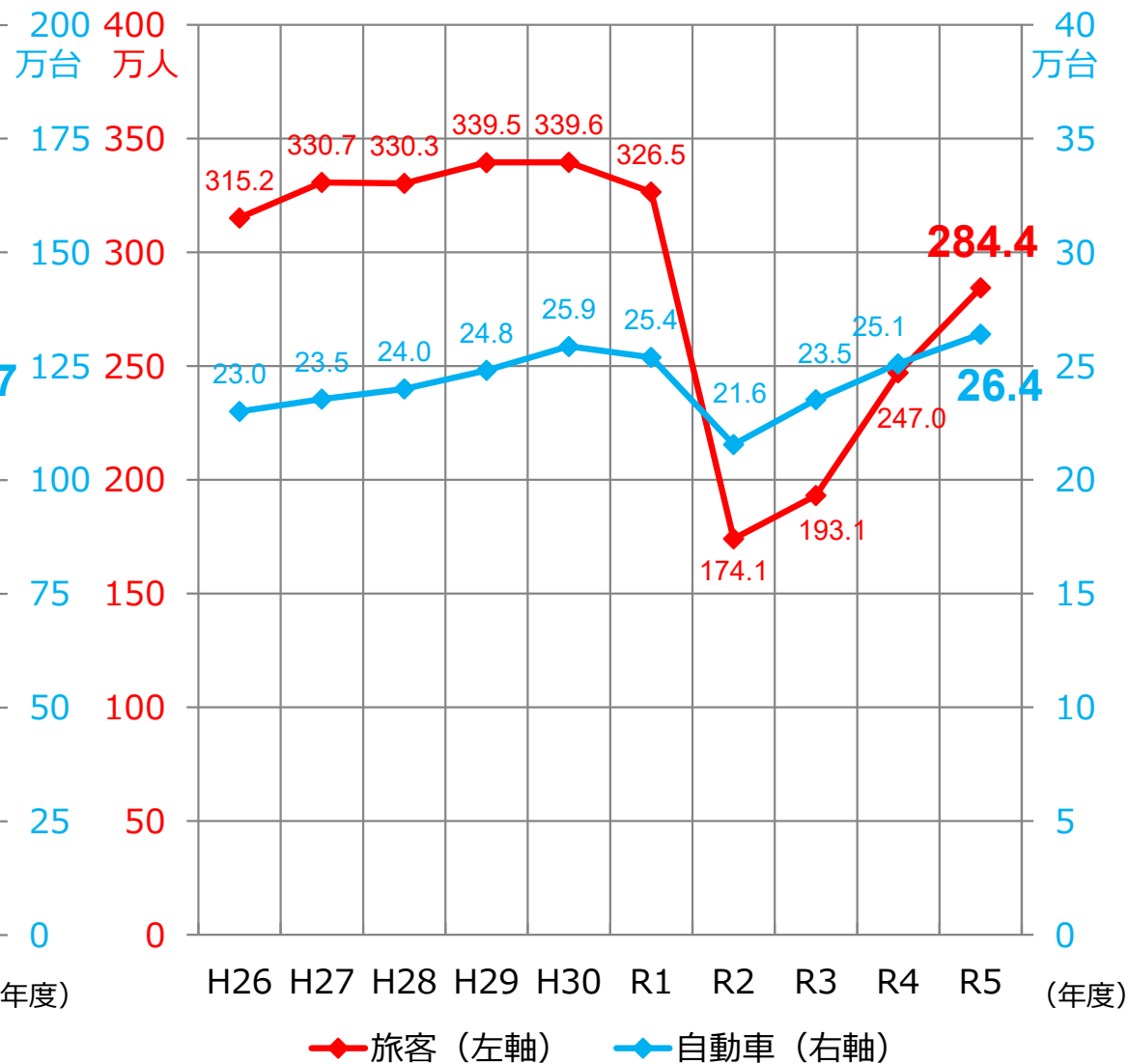
※1

※1 「その他の鉄軌道事業者」とは、次の13社の合計値。(筑豊電気鉄道、島原鉄道、熊本電気鉄道、甘木鉄道、南阿蘇鉄道、松浦鉄道、平成筑豊鉄道、くま川鉄道、肥薩おれんじ鉄道、北九州高速鉄道、長崎電気軌道、熊本市交通局、鹿児島市交通局)

長距離フェリー航路 ※1



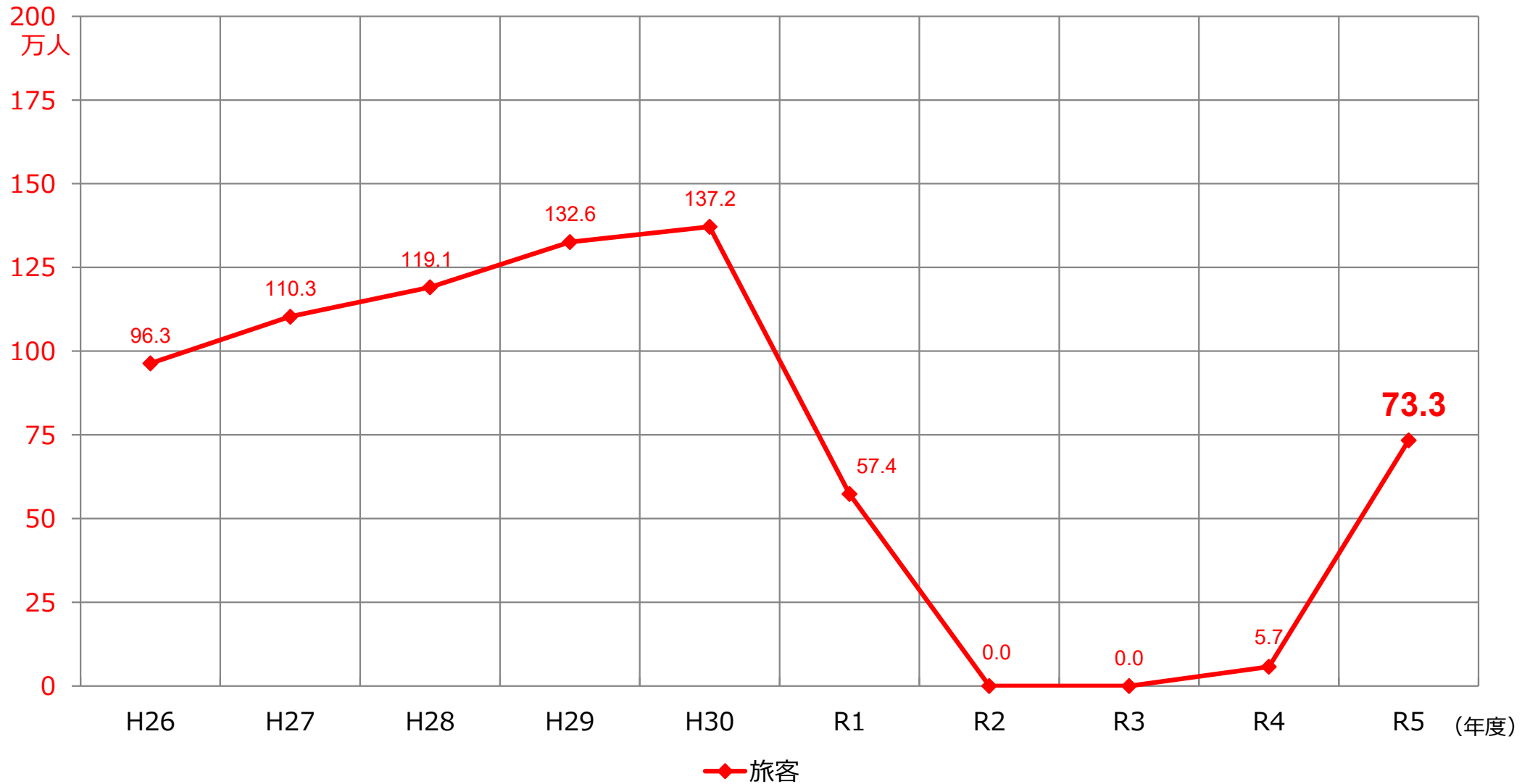
主要離島航路 ※2



※1 「長距離フェリー航路」とは、陸上輸送のバイパス的な旅客フェリーで片道の航路距離が300km以上の航路をいい、阪九フェリー、名門大洋フェリー、オーシャントランス、東京九州フェリー、フェリーさんふらわあ及び宮崎カーフェリーの6社9航路が該当。」

※2 「主要離島航路」とは、壱岐、対馬、五島列島、甬島、種子島、屋久島、奄美群島又は沖縄本島と本土を結ぶ航路をいい、12社16航路が該当。

対外旅客定期航路 ※1



※1 対外旅客定期航路とは博多～釜山、対馬～釜山、下関～釜山航路をいう。

※2 令和2年度及び令和3年度は運航実績なし。